



題字は松井岳洋筆

オリンピックと詩吟

顧問 内山岳青



リオのオリンピックが終わりました。TVで観る選手や監督、コーチの悲喜こもごもの姿や厳しい練習風景等の舞台裏

を見てみると、つい詩吟の世界とダブらせてしまうことも度々でした。例えば陸上男子400mリレーです。日本の4人のタイムは外国選手に及ばずですがチームワークで銀メダルを獲得。詩吟でも合吟や連吟、特にコンクールでは各人の吟力に加え、400mリレーのように細部にまで神経の行き届いた吟法、吟調の研究と練習の積み重ねが大事だ、等々。勝つという共通目標がある五輪選手と異なり、趣味では人によりその目的も練習環境も十人十色です。しかし、ただ楽しければいいと云う人も、うまくになりたいという向上心は誰でも

持っているはずで

です。アスリートは「努力は裏切らない」と云います。向上心や努力をいかに持続するか、難しい課題です。

柔道やシンクロで指導者の力の大きさを改めて感じました。詩吟を教える者として、その楽しさと難しさを痛感しておりますが、指導法でこれが正解と云うのは無さそうです。要は師弟の信頼関係や教室の空気といった人間関係です。それも時には考えに齟齬が生じたり、誤解により信頼関係が損なわれることもあるでしょう。師弟関係の難しいところです。私が好きな英国の教育学者の言葉を紹介します。

「良い先生はかみ砕いて教える。

優れた先生は考えさせる。

偉大な先生は心に火をつける」

「良い先生」「優れた先生」になるのも至難の業ですが、指導者としては、「燃える心を持った」弟子に育てる！。夢ですね。

行事予定

碩心会秋季審査会

日時 9月25日(日) 開会9時45分

場所 葉山福祉文化会館大会議室

詩吟体験教室 Let's SHIGI ~NI

日時 10月8日(土) 開会 午後1時

場所 カトリック茅ヶ崎教会ヨゼフ会館

逗子市詩吟舞連盟秋季発表大会

日時 10月29日(土) 開会午後1時

場所 逗子文化プラザ・なぎさホール

葉山町文化祭

日時 11月5日(土) 開会12時30分

場所 葉山福祉文化会館ホール

鎌倉市詩吟舞連盟秋季大会

日時 11月6日(日) 開会10時30分

場所 鎌倉生涯学習センター(きさら鎌倉)

詩吟体験教室 Let's SHIGI ~NI

日時 11月12日(土) 開会 午後1時

場所 葉山町立図書館

神奈川岳風連合会吟詠大会

日時 11月19日(土) 開会10時

場所 総合福祉センター(エポックなかはら)

第8回相州岳風連合吟詠大会

日時 11月23日(水) 開会10時

場所 葉山福祉文化会館ホール

第19回碩心会夏季吟道講座

残暑厳しい8月20日(土)、葉山町福祉文化会館に於いて夏季吟道講座が開催された。出席者105名。大会議室は会員で満席となった。

上村会長の「今日は熱中症にはならないよう吟の熱中症になって頂きたい。楽しい一日にしたい。」との挨拶の後、文字通り熱気溢れた講義がスタートした。

第一講 俳諧歌「金が降る」一茶 菊池世岳先生。「俳諧歌はテンポよく、リズムよく、言葉を大切に。長い詞書は韻読のように」と先生。一茶の生涯や歴史背景を織り交ぜての1時間。

第二講 漢詩(俳律)「秘書晁監が日本に還るを送る」王維 内山岳青顧問。遣唐使阿倍仲麻呂が日本に帰国する際に王維が作った詩を、当時の唐の詩人達の繋がりと、壮大な歴史の一部に触れながらの吟指導。

第三講 近代詩「小景異情」「犀川」室生犀星 東京岳川吟道会 二宮岳裕先生。金沢の土地に息づく詩情を吟に込めてのご指導。吟じ方を少し変えてみるとより味わい深い吟が生まれるなど、詩情を表現する視点を学んだ。

第四講 和歌「子等を思ふ歌一首」山上憶良 上村岳章会長。詩の情感を経験や日常の様々な場面から想像して吟じることが、よい吟になることを具体的に示された。

質疑応答では、感想等も含め8名の方からの

発言があり、また昨年俳諧歌をご指導くださった玉峯吟詠会半間岳雨先生のお話もあり、充実した講座の締め括りとなった。今ままであまり馴染みのなかった吟題に取り組み、碩心会の目標『吟技の向上』を体現した一日であった。

(森 晶風)

会場の声

◇会場は吟を精進する105名の会員で、熱気と緊張感に溢れていました。(渚 伊藤茜山)
◇吟指導を受けるだけでなく、歴史あり、人物像ありで意義ある一日であった。

(酔吟 鈴木康風)

◇吾が青春の詩人犀星を2本で吟じ、連夜の五輪観戦の眠気も醒めた。(東伏見 山本新岳)
◇俳諧歌、思ったより出来てホッとしました。



講座担当の菊池世岳、二宮岳裕、上村岳章、内山岳青の各先生方(向かって左側より)

自分の物にするのには時がかかると思いますが頑張ります。(悠吟 渡邊香)

新支部「悠々支部」の紹介

副会長 有友嘉岳



万膳義太郎、福原トキ子、鍋田敏一、有友、吉田昌之支部長(向かって左側より)

このたび6月1日付けで新たに「悠々支部」(逗子地区)を会員4名でスタート致しました。

教場は主としてJR横浜線相模原駅ビル内の相模原市民カルチャーセンター内会議室に置き原則として月

2回(第1:第3金曜日)の活動を始めています。新会員4名はいずれも私が勤務していた会社の後輩であり、また会社のOB会(悠々クラブ)の幹事を務めている仲間でもありますので気心は知れており、子弟のコミュニケーションは良好で自由な雰囲気です。通常の教室は週1回の稽古が原則ですが、私も含め新会員の住所が東京、川崎、相模原とバラバラであるため初めから無理もできず月2回、4時間にとどめています。しかし来年の春の審査会には葉山まで遠征して初段の審査を見事にパスできる吟技をご披露したいと一同頑張っておりますのでご期待ください。

ホームページ便り

碩心会のホームページについて、「このページはスマホに優しくない」との記事を見つけた。最近では、スマートフォンでのインターネットへのアクセスが増えているとの実感があつただけに、やはり、遅れをとってしまったかと感じました。

7月27日にアップした「第36回碩心会吟詠温習会」はスマートフォン(モバイル)やタブレットでも閲覧しやすいように、レイアウトとデザインを調整しました(図1)。

図2に前年との比較を示します。ページへのアクセスを示すページ訪問回数はモバイルでは2倍以上になっています。また、直帰率(1ページ閲覧後離脱してしまうユーザーの割合)は全デバイスで改善されてきています。ページを更新した直後の8月の1カ月をとってみると、41%と目標の40%に近づいてきました。すべてのページをモバイル対応に変えていきます。

現在のホームページの掲載ページは、温習会、吟詠と詩舞の集い、初吟会、およびレッツ詩吟等のイベントを中心に構成されています。さらに魅力あるサイトにするために、ユーザーの見ているデバイスに合った画面を提供する



図1: スマホ対応画面

らに魅力あるサイトにするために、ユーザーの見ているデバイスに合った画面を提供する

第36回 碩心会温習会 会計報告			
	科目	決算額	摘要
収入の部	出吟料	152,000円	1,000円×152名
	大会補助金	60,000円	本部より補助金
	合計	212,000円	

支出の部	温習会	13,000円	ホール、大会議室使用料
		14,800円	ホール、大会議室設備使用料
		11,289円	プログラム作成代
		15,998円	コンクール関係、お礼
		100,100円	昼食代(お弁当・お茶)
	傷害保険	6,000円	東京海上日動火災保険
	事務・通信費	6,298円	コピー、FAX、文具、電話等
	会議費	18,969円	反省会、その他
	会場費	3,000円	説明会(1回)
	運送費	4,000円	買物及び当日運搬費
	交通費	15,020円	駐車場代含む
	予備費	656円	ビニール手揚げ袋(お弁当用)・セロテープ
	小計	209,126円	
	本部会計返金	2,874円	
合計	212,000円		

デバイス	ページ訪問回数			直帰率		
	前年(A)	今年(B)	B-A	前年(A)	今年(B)	B-A
デスクトップ	3,235	1,200	△2,035	71%	57%	△15%
モバイル	145	316	171	68%	54%	△13%
タブレット	53	62	9	45%	39%	△7%

前年(2015/5/28~2015/8/27) 今年(2016/5/28~2016/8/27)

図2: デバイス毎のページ訪問回数と直帰率

ことは言うまでもありませんが、興味を引くページを増やしていくことも必要と考えています。「碩心」は会員の広報紙ですが、会員以外にも吟を愛する多くの人に広めたい貴重な記事が豊富に含まれています。ホームページにその一部を掲載して碩心会の活動を魅力的なページに仕上げて行くことも、訪問者の増加に繋がっていくものと思います。ホームページのリニューアルに取り組んでいます。掲載ページのアイデアやアドバイスをお願いします。(森 祐風)

詠歌を題したと伝えられている如意輪寺にも行き参拝しました。また、大阪府の楠庇庵付近の名勝古跡を訪れたこともあり、作者菊池溪琴のすばらしい詩に魅了されました。

吟詠に充たつて。諺「読書百遍意自ずから通ず」から始め、一句目は南朝の頃から在ったと思われる古木の景色を現した叙景です。二句目と三句目は作者の感情を述べた抒情です。四句目は奈良県と大阪府に跨る金剛山下の夕ぐれの景観を現した叙景です。要は、詩の心を掘り下げ表現する事です。

神静地区師範吟詠大会に出吟して

参与 立澤岳晴



去る、6月19日(日)小田原市民会館にて平成28年度準師範、師範、正師範、首席師範、計92名の出吟数で開催されました。碩心会からは準師範の部に有友嘉岳、菊地岳悠の両先生、師範の部には立澤岳晴です。

選んだ吟題は「河内路上」です。この詩について述べさせて戴きます。私は気ままな旅を楽しむ事が好きで、この詩に関連のある奈良県吉野山には何度か登りました。その際、楠木正行が南北朝時代の武将正成の名を過去帳に録し

詩吟と私

瀧の坂支部 坂上葉風

私の詩吟との出会いは、ひよんな事から始まりました。たまたま平成14年5月の葉山町文化祭での詩吟会場の隅っこに勝手に入っていたのです。興味が誘ったのでしよう。それが伝統ある碩心会の65周年記念大会だったとは、後で知ったので、お許しください。この年の9月になつて上村先生のお誘いを受けて入会させて頂きました。以来、翌年の春初段、来春は皆伝への挑戦です。日頃、懇切な御指導を頂いて、応用の面でも役立つています。慶弔共に、その場に相応しい漢詩なり、和歌を吟じたりして喜ばれています。必要な時は自分で作つて吟じます。はてさて、この私の心臓も何時止まるやら、毎春の高齢者検診で不整脈が出ると云われるのですが、私自身は全然信用していません。自覚症状が無いし、何時止まってもいいと思つているからです。最近聞いた話では、岳風流統の丹田呼吸法や二句三息の吟法を持続すれば、人生のガス抜きにもなり、脳細胞等のドーパミンとセロトニンの働きや精神活動も活発化する妙力があり、健康と鋭気が養われるという。お陰で私の不整脈もやがて消えるのではないかと思っています。そんな訳で、偶然出会った詩吟と今の私の存在は切つても切れない関係になつていきます。今後とも宜しくお願いします。

詩吟健康法

やよい支部 山口青山

東日本大震災の年に入会しました。詩吟を始めた目的の一つは身体を中心・幹である、丹田を意識することでした。詩吟初体験者なので上手に吟ずるのは二の次で「二句三息」と「腹式呼吸」に努めてきました。5年も経つと臍下三寸・丹田の辺りのインナーマッスを少しは意識出来るようになって来た感覚があります。

私の後入会された仲間には、詩吟経験のある方、声楽に長けた方、漢詩の素養がある方、等々多士濟々です。皆様の吟に接するたびに、日々たゆまぬ発声練習、そして、素読の重要性を認識させられます。努力なく時間の経過により雅号が山に至つた者としては恥ずかしいかぎりです。

冠 稱

- * 総本部より、碩心会の2名の先生方が冠稱を贈られました。おめでとうございます。(平成28年7月1日付)
- ◎ 宗 帥 上村 章 (岳章)
- ◎ 宗 匠 立澤 千世見 (岳晴)

会 員 の う ご き

- * 入会 (8月1日付)
220 永井 翔太 (真澄) 逗子市沼間
紹介者 高橋岳之
- * 退会
173 長谷川 静雄 (松和)

編 集 後 記

金、銀、銅それぞれに輝きと重みがあるが、それを勝ち取れなかった多くの選手達のドラマにも胸が熱くなる。彼らの言を借りれば、競技は楽しむ事が大切であるという。楽しむ者には勝てない。

来年開催予定の「碩心会創立80周年記念大会」の内容も決まりそれぞれ稽古に励んでいることと思います。当日は会員、ご来場の皆様共々詩吟を楽しみたい。

広報部

28年8月現在	会員数
逗子地区	111名
葉山地区	77名
合 計	188名